

第2回 光風台駅前エスカレーター一代替案検討会議 会議録（概要）

日時 平成23年8月6日（土）午後7時15分より9時40分
場所 光風台自治会館
出席者 学識経験者 : 赤井阪大教授（会長）、猪井阪大助教（職務代理）
光風台自治会 : 水谷自治会長、倉場委員、飯田委員
新光風台自治会 : 大原自治会長、本山委員、吉岡委員
豊能町役場 : 鴻野建設課長、内田財政課長、木田企画政策課長
傍聴者 上島府議、秋元議長、西岡議員、高尾議員、竹谷議員、小寺議員、
高橋議員、住民15名

会長 開会。

木田 資料確認。

内田 「人件費の状況について」資料説明。

質疑 議員の人件費、政務調査費などはいくらか。そういうものも詰めずに財政難だとエスカレーターをやめるのは困る。

内田 平成21年度決算では議員報酬は合計約5,500万円。月額30万円。議員の期末手当などの金額は今手元がない。

会長 議会運営費用、議員定数、議員報酬、議員に対する費用などの町村比較を次回用意されたい。

内田 「普通会計決算の推移」資料説明。

会長 臨時財政対策債の仕組みの解説。

内田 「財政推計の変化」資料説明。

質疑 人口減少や高齢化による町税の減収は見込んだか。エスカレーターが廃止されると人口流出に拍車をかけ、人口はさらに減少する。

職代 財政再建計画の目標である平成26年度末の基金残高10億円を上回る2億円についてどう考えるのか。

内田 10億円は最低ラインの設定であり、10億円で十分だという認識ではない。さらに残すべきと考えている。

内田 「財政再建計画の検討に際し俎上に載せた事業の一覧」資料説明。

質疑 し尿処理は、廃止やコスト削減、簡易浄化槽への切り替えなど、合理化できないか。し尿処理にかかる1軒当たりのコストはいくらか。

内田 箕面市のし尿処理を受託している状況。軒数は不知。

鴻野 下水処理区域内に簡易浄化槽は設置できない。不公平が生じる。

木田 生活の基礎部分であり、やらねばならない。

質疑 公園、街路樹の管理のうち、街路樹は伐採し、管理費を削減できないか。街路樹を残してエスカレーターを廃止するという計画は甘い。エスカレーターを残すために街路樹を伐採してもいいという人が過半数はいるはず。公園、緑地の草刈に住民負担をお願いしたらどうか。自治会への補助金は無駄。

鴻野 街路樹を伐採し、根を起こし、跡を舗装するとなると、莫大な費用がか

かり、管理費の削減ではペイしない。管理基準を作成し、街路樹の管理について取り組んでいる。街路樹を残してほしいという人もいる。

会長 住民負担は重要なポイント。負担のあり方の問題はこれから出てくる。

質疑 消防署の建替えは必要か。なぜこの時期なのか。

内田 耐震性がないことが明らかで、防災の拠点として必要。

木田 箕面市との広域連携の協議が整ったから。地域の安心安全のために有効。

質疑 高山地区まちづくり事業は必要か。

内田 道路が狭隘で緊急自動車が通行できない。消火栓も不十分。旧高山小学校の跡地利用も必要。このことから道路整備、消火栓整備、右近の郷の整備を行ったもの。

会長 し尿、公園・街路樹のコストと事業を残す理由について、次回資料を用意されたい。

木田 「豊能町地区別・年齢別人口表」資料説明。

鴻野 「エスカレーター及びエレベーターのイニシャルコスト及びランニングコスト」資料説明。

会長 国の一括交付金が交付される場合、補助率は。補助額は。住民代表委員が提示した見積りの内容は。

鴻野 補助対象経費の55%補助。事業費2億8千万円なら2億2~3千万円が対象と思う。委員提示の見積書を見ると、見積もりから除外された工事がある。基礎の耐力の検討が必要。

質疑 除外工事はあるが、それは数パーセントの増額のはず。基礎を作りかえる必要はない。町の見積りはオーバーだ。信用できる見積りを出すべきだ。

会長 金額は幅を持って議論を進めることにしたい。

鴻野 「光風台駅で電車を降車し、どのような手段で次の目的地に行くかの調査を行う日の目安及びスケジュール」資料説明。

質疑 迎えに来た車についてもどちらに行くのか調査されたい。大まかな年齢も調査できないか。

会長 調査日程、方法、人員など、町と自治会とで調整されたい。では次回について。

質疑 エレベーターの仕様、場所、規格を示されたい。それがなければ、見積もりができない。コンサルタントの設計が必要。

会長 コンサルタントの件は次回詰める。

質疑 エスカレーターがなくなったときの損失を議論すべき。

職代 エスカレーターを残すのも一つの代替案だが、町の代替案を出すべき。

木田 次回か次々回に町の代替案を提案したい。

会長 次回は、エスカレーターに対する一括交付金がある場合、ない場合、事業費が1億円の場合、2億円の場合など幅を持って議論を進めたい。町の代替案も議論したい。

木田 次回は9月3日。第4回は10月23日午後5時。

以上

第2回 光風台駅前エスカレーター代替案検討会議

日時 平成23年8月6日(土)

午後7時～

場所 光風台自治会館

次第

1. 開 会

2. 議 題

- (1) 町の現状について
- (2) エスカレーターの見積等

3. 第3回会議の日程

日時 平成23年9月3日(土) 午後7時～

場所 新光風台自治会館

4. 第4回会議以降の日程

日時 平成23年 月 日(土) 午後7時～

場所 光風台自治会館

本日の資料

- (1) 第1回 検討会議 会議録(概要)
- (2) 人件費の状況について
- (3) 財政推計の変化
- (4) 普通会計決算の推移
- (5) 財政再建計画の検討に際し俎上に載せた事業の一覧
- (6) 豊能町地区別・年齢別人口表(平成23年3月末)
- (7) エスカレーター及びエレベーターのイニシャル・ランニングコスト
- (8) エスカレーター利用者調査方法(案)
- (9) 財政再建策の広報写し

人件費の状況について

人件費が他の町村に比べ高い原因については、職員給与の総額が多いことが影響しており、その主な要因として、①職員数が相対的に多いこと、②職員の平均年齢が高いことが考えられ、それぞれの要因を検討した内容は、次のとおりである。

I. 現 状

○ 府内町村の人件費の状況（平成 21 年度決算） （単位：百万円）

	豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
歳出計	6,101	8,935	4,773	6,060	5,501	10,956	6,514	4,937	4,540	3,262
人件費	2,198	2,355	1,064	1,284	1,039	3,084	1,179	1,432	952	718
人件費率(%)	36.0	26.4	22.3	21.2	18.9	28.2	18.1	29.0	21.0	22.0

○ 府内町村の職員数の状況 （平成 22.4.1 現在）

		豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
職 員 数	一般行政	138	137	70	88	86	260	112	94	76	50
	全職員	246	240	128	168	126	389	161	165	119	80
人 口 当 り	一般行政	5.9	4.7	5.6	5.0	10.6	5.8	6.2	5.7	5.3	7.9
	全職員	10.5	8.2	10.3	9.5	15.5	8.7	8.9	10.0	8.3	12.7

※ 一般行政部門は、教育、消防、特別会計、公営企業会計を除く部門

※ 人口当りは、人口千人当たりの職員数

II. 人件費の高い要因

1. 職員数が相対的に多いこと

職員数が多い要因として、清掃（ごみ収集）業務のうち主なもの(可燃ごみ)や給食調理業務を直営により行っていること、本町の地理的な状況を踏まえ、従来から東西それぞれの地区にサービスを提供してきたこと、また、他の町村と比べ、充実したサービスを提供してきたことが考えられる。

(1) 業務の直営によるもの

○ 府内町村の業務の処理状況

	豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
調理	×	△	×	○	○	○	×	×	○	○
清掃	△	○	△	○	×	○	○	○	○	○

※ ○印は全部委託、△印は一部委託、×印は直営

○ 府内町村の職員の配置状況（技能労務職、常勤職員のみ）

（平成 22.4.1 現在）

	豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
調理	7	2	7	0	0	0	10	0	0	0
清掃	12	5	0	0	4	0	0	0	0	0
その他	8	4	4	2	3	0	4	4	0	1
計	27	11	11	2	7	0	14	4	0	1

○ 人件費の状況（平成 23 年度豊能町予算）

（単位：百万円）

	常勤職員	非常勤職員	計
給食調理	45	44	89
清掃（ごみ収集）	92	14	106

(2) 地理的な状況を踏まえた施設の設置によるもの

東西それぞれの地区にサービスを提供してきたことによるもの

○ 府内町村の施設の設置状況

	豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
消防署	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0
小学校	4	4	6	2	1	5	3	4	2	2
中学校	2	2	2	1	1	3	1	1	1	1
幼稚園	2	2	0	2	1	0	1	2	1	1
保育所	2	2	1	2	1	6	3	1	0	0
支所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

○人件費の状況（平成 23 年度豊能町予算）

（単位：百万円）

	消防署	小学校	中学校	幼稚園	保育所	吉川支所	計
人件費	299	65	11	110	213	50	748
1施設当たり	149.5	16.2	5.5	55	106.5	50	—

※ 人件費は、常勤職員及び非常勤職員の合計

(3) 住民サービスの充実を図るための施設の設置によるもの

○府内町村の施設の設置状況

	豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
図書館	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0
市民会館	1	2	1	0	0	2	0	0	1	1
体育館	2	1	1	0	0	1	1	2	1	1
公民館	2	0	0	1	1	1	1	2	1	0
診療所	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1

○人件費の状況（平成23年度豊能町予算）

（単位：百万円）

	図書館	文化ホール	体育館	公民館	診療所	計
人件費	30	4	—	8	59	101

※ 人件費は、常勤職員及び非常勤職員の合計

※ ただし、文化ホール及び公民館の人件費には、常勤職員の人件費は含まない。

2. 職員の平均年齢が高いこと

これまで、職員の新規採用を抑制してきたことから、職員の高齢化が進んでおり、府内の他の町村と比べると、職員の平均年齢が高くなっている。

○過去10年間の職員の採用状況（豊能町）

	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
事務職	0	1	0	2	0	0	1	0	0	2
消防職	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0

○府内町村の平均年齢と平均給料月額

（平成22.4.1現在）

	豊能町	島本町	能勢町	忠岡町	田尻町	熊取町	岬町	河南町	太子町	千早赤阪村
平均年齢	46.2	39.3	41.3	47.7	41.8	42.5	45.5	45.8	44.9	46.3
給料月額 (千円)	335.0	296.6	312.7	348.9	329.0	329.1	342.8	339.3	350.5	343.4
ラス指数	92.5	101.4	96.0	94.5	99.5	98.7	96.0	94.8	98.4	94.8

※ 給料月額は、豊能町は5%カット後、忠岡町・岬町は2%カット後の額

※ 職員の平均年齢は、府内43市町村中3番目に高い。

財政推計の変化

(百万円)

平成21年10月現在

現在の住民サービスを続け、今後5年間に想定される臨時的・投資的事業をすべて施行したら

年度	20	21	22	23	24	25	26
実質収支	198	100	0	▲ 177	▲ 719	▲ 1,208	▲ 2,010
実質単年度収支	34	▲ 237	▲ 371	▲ 814	▲ 542	▲ 489	▲ 802
基金残高	1,331	1,156	660	0	0	0	0



平成22年3月現在

財政再建計画を実行したら

年度	20	21	22	23	24	25	26
実質収支	199	108	375	104	▲ 132	▲ 302	▲ 623
実質単年度収支	34	▲ 136	83	▲ 84	▲ 184	▲ 170	▲ 320
基金残高A	1,331	1,158	901	1,128	1,219	1,258	1,297
基金残高B					1,087	956	674

※基金残高Aは、H23から基金を取り崩さないことを前提にしたもの

※基金残高Bは、基金を取り崩すことを前提とし、単純に「基金残高A+実質収支」としたもので、この場合、H24からH26の実質収支はゼロ。



平成23年3月現在

財政再建計画の進捗状況を反映したら

年度	20	21	22	23	24	25	26
実質収支		201	106	102	0	0	0
実質単年度収支		113	235	49	▲ 315	▲ 220	▲ 464
基金残高		1,445	1,716	1,808	1,634	1,453	1,028

※現時点におけるH22の見込みは、実質収支270、実質単年度収支436、基金残高1,961。

用語の解説

- ・実質収支とは、歳入から歳出を差し引いた額から翌年度に繰り越す財源を控除した額。一般的に実質収支の額を地方公共団体の黒字・赤字と言う。
- ・実質単年度収支とは、基金の積み立てと取り崩しがなかった場合の単年度収支で、その年度の実質的な収支を表す。
- ・基金残高は、貸付金を含まない現金ベース。

普通会計決算の推移

百万円

年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
歳入合計 A	6,119	6,296	7,053	8,777	6,756	7,862	9,428	7,494	8,519	8,769	8,777	7,396	7,428	7,553	7,613	7,637	7,795	7,697	6,441	6,250	6,424		ア
町税	2,205	2,668	3,177	3,281	3,377	3,054	3,251	3,276	3,464	3,309	3,238	3,039	2,971	2,914	2,659	2,569	2,504	2,459	2,626	2,611	2,460		イ
地方交付税	1,201	1,306	1,167	1,758	1,486	1,529	1,585	1,730	2,073	1,930	2,307	2,309	2,146	2,059	1,817	1,798	1,952	1,913	1,813	1,613	1,617		ウ
普通交付税	1,011	1,104	954	1,532	1,270	1,307	1,352	1,483	1,812	1,631	1,936	1,913	1,785	1,727	1,506	1,477	1,445	1,246	1,327	1,296	1,299		エ
特別交付税	190	202	213	226	216	222	233	247	261	300	370	396	360	332	311	321	508	667	486	317	319		オ
町債	340	43	681	1,245	173	858	1,254	662	627	1,180	398	65	306	330	684	535	667	679	295	306	467		カ
臨時財政対策債													140	272	632	448	339	285	259	242	376		キ
歳出合計 B	5,738	6,069	6,844	8,555	6,614	7,634	9,247	7,228	8,182	8,359	8,473	7,168	7,306	6,854	6,870	7,334	7,402	7,741	6,196	6,017	6,101		ク
人件費 C	1,262	1,433	1,591	1,938	1,986	2,141	2,216	2,492	2,442	2,521	2,505	2,518	2,558	2,569	2,565	2,487	2,454	2,289	2,218	2,219	2,198		ケ
職員給	864	956	1,078	1,226	1,333	1,434	1,498	1,631	1,675	1,732	1,747	1,757	1,782	1,769	1,734	1,690	1,703	1,549	1,547	1,526	1,486		コ
形式収支 A-B=D	381	227	209	222	142	227	181	267	338	411	304	228	122	699	743	304	393	225	244	233	323		サ
翌年度繰越財源 E	168	18	20	0	8	79	2	60	149	117	90	43	4	523	532	56	305	72	67	34	123		シ
実質収支 D-E	213	209	189	222	134	149	180	207	189	294	214	185	118	176	211	248	88	154	178	198	201		ス
単年度収支	▲ 17	▲ 4	▲ 20	33	▲ 88	15	31	27	▲ 18	105	▲ 79	▲ 29	▲ 67	58	35	37	▲ 160	66	24	21	2		セ
実質単年度収支	18	47	40	174	▲ 97	▲ 18	▲ 56	▲ 9	91	413	81	244	▲ 159	▲ 410	63	▲ 67	▲ 146	61	44	34	113		ソ
積立基金残高(貸付除)	2,434	3,567	4,149	4,277	5,050	4,854	3,965	4,025	3,790	3,801	3,786	3,900	3,770	3,177	2,983	2,616	2,411	1,440	1,397	1,331	1,445	1,961	タ
財政調整基金	712	763	823	964	955	922	835	799	908	1,216	1,376	1,650	1,549	1,081	1,109	1,004	1,019	1,014	1,033	1,047	1,157	1,524	チ
その他特定目的基金計	1,722	2,804	3,326	3,313	4,095	3,932	3,130	3,226	2,882	2,585	2,410	2,250	2,221	2,096	1,874	1,612	1,392	426	364	284	288	437	ツ
町債残高	2,940	2,839	3,368	4,422	4,306	4,812	5,687	5,929	6,072	6,723	6,556	6,009	5,686	5,354	5,426	5,424	5,578	5,809	5,689	5,570	5,607	5,944	テ
臨時財政対策債残高													140	412	1,043	1,488	1,818	2,079	2,289	2,450	2,716	3,142	ト
臨時財政対策債の償還額(元金・利子)													2	5	13	29	51	79	115	144	157		ナ
人件費比率 C/B	22.0%	23.6%	23.2%	22.7%	30.0%	28.0%	24.0%	34.5%	29.8%	30.2%	29.6%	35.1%	35.0%	37.5%	37.3%	33.9%	33.2%	29.6%	35.8%	36.9%	36.0%	#DIV/0!	ニ
普通会計職員数(人)	193	208	216	225	238	251	261	270	268	272	271	269	266	263	260	248	248	237	236	232	229	223	ヌ

※普通会計とは、一般会計から介護保険、介護サービスに係る経費を除外し、土地取得特別会計を加えたもの。

※人件費は、議員報酬、委員報酬、非常勤報酬、特別職給、職員給、退職手当、共済費の計。

※職員給は、職員の給料と職員手当(退職手当を除く)の計。

※実質収支とは、歳入から歳出を際し引いた額(形式収支)から翌年度に繰り越す財源を控除した額で、一般的に実質収支の額を地方公共団体の黒字・赤字と言う。

※単年度収支とは、実質収支の前年度比較で、その年度中に発生した黒字・赤字を表す。

※実質単年度収支とは、財政調整基金の積み立てと取り崩しがなかった場合の単年度収支で、その年度の実質的な収支を表す。

財政再建計画の検討に際し俎上に載せた事業の一覧

●財政再建計画の対象とした事業

項目	計画概要(22年3月)
公共施設	
保健センター	豊悠プラザと統合
豊悠プラザ	保健センターと統合
国保診療所(繰出金)	合理化
ふれあい文化センター	憩の家と統合
老人憩の家	ふれあい文化Cと統合
農村婦人の家	廃止・地元移管
双葉保育所	東能勢幼と統合
東能勢幼稚園	双葉保と統合
吉川幼稚園	光風台幼と統合
光風台幼稚園	吉川幼と統合
吉川公民館	廃止・地元移管
ユーベルホール	休止
青少年総合スポーツセンター	プールを廃止
シートス	指定管理料削減
光風台自転車駐車場	合理化
ときわ台自転車駐車場	合理化
妙見口自転車駐車場	合理化

経常的事業	
人件費	職員給与5%カットなど
本庁受付業務	委託廃止
巡回バス	全面見直し
ごみ収集	有料化
公民館の自主事業	廃止
図書館の自主事業	廃止
社会教育関係施設の運営協議会	ひとつに統合
上水道事業への繰出金	削減
下水道事業への繰出金	削減

投資的事業	
地デジ放送整備費助成(町単独)	見送り
巡回バスの車両更新	見送り
国保診療所の医療機器更新	見送り
清掃事務所整備	見送り
光風台駅前エスカレーター更新	見送り(廃止)
消防団ポンプ車の更新	隔年に
図書館コンピュータシステム更新	見送り
ユーベルホール舞台装置等改修	見送り
青少年総合スポーツセンター改修	見送り
光風台自転車駐車場の塗装	見送り
吉川支所身体障害者用便所整備	見送り

●対象外とした主な事業※

項目
公共施設
吉川支所
老人福祉センター永寿荘
老人福祉センター豊寿荘
光風台留守家庭児童育成室
東ときわ台留守家庭児童育成室
東能勢留守家庭児童育成室
高山コミュニティセンター右近の郷
吉川保育所
中央公民館
西公民館
図書館
郷土資料館
スポーツ広場
ふれあい広場

経常的事業	
公用マイクロバス	
庁内イントラネット	
介護保険	
後期高齢者医療	
国民健康保険	
住民健診、がん検診、予防接種	
障害者福祉	
老人医療	
障害者医療	
母子保健	
乳幼児医療	
国崎クリーンセンター	
し尿処理	
道路の維持補修	
公園・街路樹の管理	

投資的事業	
防災無線のデジタル化	
豊能郡美化センター解体事業	
ダイオキシン(ドラム缶)処理	
橋梁長寿命化工事	
光風台大橋耐震化工事	
一庫交差点拡幅改良工事	
高山地区まちづくり事業	
牧地区ため池改修事業	
高規格救急車更新	
消防救急無線デジタル化	
消防庁舎建替え工事	
消防広域化	
東能勢小学校耐震化工事	
光風台小学校耐震化工事	
東能勢中学校耐震化工事	
吉川中学校耐震化工事	

※平成22年3月現在、施行していた事業及び今後5年間に想定されていた事業の主なもの

豊能町地区別・年齢別人口表

2011年 [平成23年] 3月末日

地区名	世帯数	0～14歳		15～64歳		65歳以上		計		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
東地区	2,045	311	279	1,832	1,828	556	717	2,699	2,824	5,523
吉川	190	7	12	91	100	60	123	158	235	393
ときわ台	1,247	123	111	701	834	545	615	1,369	1,560	2,929
東ときわ台	1,803	245	204	1,459	1,634	613	611	2,317	2,449	4,766
光風台	2,057	208	195	1,309	1,605	852	880	2,369	2,680	5,049
新光風台	1,512	239	199	1,557	1,663	336	387	2,132	2,249	4,381
合計	8,854	1,133	1,000	6,949	7,664	2,962	3,333	11,044	11,997	23,041

○ エスカレーター及びエレベーターのイニシャルコスト及びランニングコスト

区分	金額(千円)	備 考
エスカレーター更新	280,000	
年間維持管理費	6,000	監視人件費除く
エレベーター新設	162,000	
年間維持管理費	1,000	監視人件費除く

【参考】

区分	次期更新費用(千円)	備 考
エスカレーター	150,000	耐用年数 15 年
エレベーター	25,000	耐用年数 17 年

- 光風台駅で電車を降車し、どのような手段で次の目的地に行くかの調査を行う日の目安及びスケジュール

始発から終電まで光風台駅で降車した人の数および降車後の交通手段の調査。調査曜日は平日(火又は木)の予定

調査票のイメージ

到着時刻	交通手段								合計
	エスカレーター		階段(ES横)		歩道	バス	迎車	タクシー	
	光風台方面	新光風台方面	光風台方面	新光風台方面					
6:00									
6:23									
6:37									
6:48									
6:57									
}	}	}	}	}	}	}	}	}	}
23:01									
23:10									
23:21									
23:36									
23:48									
23:58									
0:12									
0:35									
0:47									

人員配置の予定

時刻	駅前 2名		エスカレーター(上) 2名		備考
6:00~8:00					
8:00~10:00					
10:00~12:00					
12:00~14:00					
14:00~16:00					
16:00~18:00					
18:00~20:00					
20:00~22:00					
22:00~24:00					
0:00~1:00					

駅前の人員について

エスカレーターの利用者は、17:00~22:00 までがピークと思われる。この時間帯を3名体制にしてたほうがいいのか。

- 調査を行う予定月日

平成 23 年 月 日()

「財政再建に向けて みなさまのご理解とご協力をお願いします」

●豊能町の財政の現状『このままでは財政再生団体に！』

豊能町の財政は、基金（町の貯金）を取り崩さずに現状のまま推移すると、平成24年度に財政再生団体（民間で言う倒産状態）に転落します。（図1の「改革前」）

仮に基金を全部取り崩しても、平成24年度に赤字に陥り、平成26年度には財政再生団体に転落する危機的状況にあります。

税収は平成9年度の34億6千4百万円をピークに減り続け、平成22年度は23億2千2百万円にまで落ち込む見込みです。これは平成元年度の税収と同程度で、ほぼ20年前の水準と言えます。

また、歳入のもう一つの根幹である地方交付税も平成12年度の23億9百万円をピークに減少傾向にあり、平成22年度は14億7千百万円と見込まれ、ピーク時から4割も減少しています。（図2の棒グラフ）

豊能町では、税収などの歳入の伸びを背景にこれまで公共施設の新築や新たな事業に多額の予算を投入し、行政サービスの向上に努めてきました。例えば、ユーベルホール、シートス、豊悠プラザ、自転車駐車場、東能勢幼稚園、留守家庭児童育成室、子育て支援センター、生き生きふれあいホールなどの施設や下水道の整備、また、防災行政無線、介護保険、地域包括支援事業、後期高齢者医療、巡回バスなどの諸事業です。

こうした平成の初めにはなかった施設や事業が増加した一方、歳入は平成の初めころの水準に下がったというのが実情です。（図2の折線グラフ）

財政調整基金などの積立基金の残高をみると、平成5年度に50億5千万円ありましたが、これまで取り崩し続けてきた結果、平成22年度当初予算の段階では8億4百万円にまで減りました。（図2の折線グラフ）

今後も人口減少や高齢化の進展により税収が減少する一方で、医療や福祉などの社会保障費が増加することから、ますます厳しい財政状況に陥っていくことが確実な状態です。また、このような中でも、多額の費用を要する学校の耐震化や公共施設の維持補修、ダイオキシン対策などを実施しなければなりません。

図1 財政推計(23年度から基金の取り崩しを行わない場合)

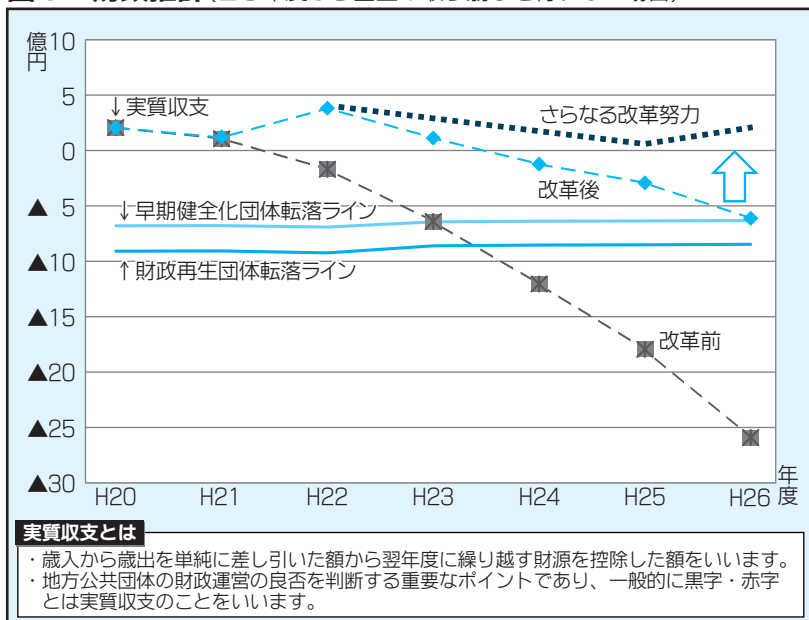
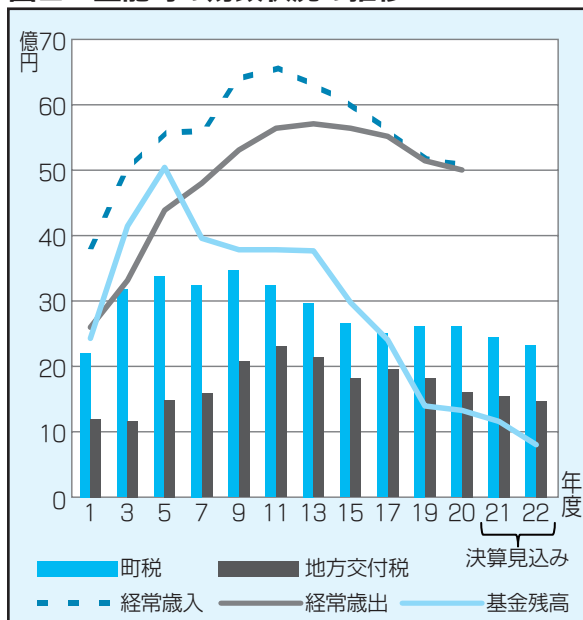


図2 豊能町の財政状況の推移



●財政再建の取組み

豊能町はこれまで、平成9年に行政改革大綱を策定し、平成11年と平成14年の2回にわたり、その実施計画を作り、行政改革に努めてきました。さらに、平成18年には、平成22年度末までの5年間を目標年次とする新行財政改革推進計画（案）を策定し、30億円の効果額と15人以上の職員削減を目標に取り組んできました。しかし、人口減少と急激な高齢化により町税が減少し、歳出の削減が歳入の減少に追い付かない状況です。

このため、新たな財政再建計画を策定し、平成22年度からの5年間で20億円以上の収支改善を図るため、表1のとおり改革を進めることとしました。

財政再建計画の実行により財政再生団体への転落は避けられますが、それでも早期健全化団体(倒産直前の状態)の転落ラインぎりぎりまで赤字は膨らむ見込みです。(図1の「改革後」)このため、さらなる改革努力が必要であり、計画以上の歳入確保と歳出削減について検討中です。(図1の「さらなる改革努力」)

歳入が大幅に減少した現在の町財政を踏まえ、既存の行政サービスを身の丈に合ったものに見直すことが必要です。経常的経費の約半分を占める人件費を削減するとともに、住民のみなさまにもご負担をお願いしながら、基本的な行政サービスを維持し、さらに未来の見えるまちづくりに向け、まちの活性化につながる施策を行っていきたくと考えています。住民のみなさまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

表1 財政再建計画【平成22年度～平成26年度】

廃止・休止するもの	巡回バス	22年4月から料金の減免を廃止。運行は23年4月からの廃止も含め全面見直し。バス車両の更新を見送り。
	光風台駅前エスカレーター	設備の更新を見送り、毎年度修繕費を計上。26年度末までに廃止。
	農村婦人の家	23年3月末に廃止。
	吉川公民館	23年3月末に廃止。
	ユーベルホール	22年度は自主事業を削減。23年3月末休止。舞台装置等の改修を見送り。
施行を見送るもの	青少年総合スポーツセンターのプール	体育館・プールの改修を見送り。プールは22年度から廃止し、学校のプールを活用。
	地デジ放送整備費助成	町独自の助成は行わない。
	清掃事務所	整備を見送り。既存施設を活用。
	図書館	コンピュータシステムの更新を見送り。
統廃合するもの	吉川支所	身体障害者用便所の改修を見送り。
	豊悠プラザと保健センター	23年4月統合。
	ふれあい文化センターと老人憩の家	23年4月統合。
	東地区保幼一元化	23年4月から双葉保育所と東能勢幼稚園を統合して、東能勢幼稚園敷地内に一元化し、こども園を設置。
	西地区幼稚園統合	23年4月から吉川幼稚園と光風台幼稚園を統合して、光風台幼稚園敷地内に設置。
削減するもの	社会教育関係施設の運営協議会	22年度から社会教育委員会に一元化。
	人件費	22年4月から5年間、職員給与を5%削減。
		22年4月から非常勤職員報酬を見直し。
		22年4月から任期中、特別職等の給与を(町長17%、副町長・教育長7%)削減。
		管理職手当の削減(部長・次長級15%、課長級10%)を継続。
	職員数を削減(21年度当初比、26年度までに30人減)。再任用制度を凍結。 ※一般会計の職員数:21年度当初237人→26年度当初207人	
	上水道事業への繰出金	22年度から減額。
	下水道事業への繰出金	22年度から減額。
消防団ポンプ車の更新	毎年の更新をやめ、隔年に1台更新。	
合理化するもの	公民館自主事業・図書館自主事業	22年度から館の事業予算を、生涯学習課の経常予算に一元化することによって、総事業費を削減。
	シート指定管理料	23年度から利用料金を見直し、指定管理料を減額。
歳入の確保	本庁受付業務	23年度から業務委託を廃止し、職員が行う。
	国保診療所	医療機器の更新を見送り、合理化に向け検討。
	駐輪場	光風台駐輪場の塗装を見送り、妙見口・ときわ台・光風台とも、合理化に向け検討。
その他	ごみ収集の有料化	23年4月実施。
	さらなる改革努力	使用料・手数料の見直し、町有地の売却、事業仕分け、予算の枠配分など

財政再建シリーズ

「何にいくらかかるのか？」にお答えします

本誌4月号に、平成22年度から平成26年度までの「財政再建計画」を掲載したところ、住民のみならずからたくさんのご意見、ご質問をいただきました。ご意見としては「〇〇は廃止せず存続するべきだ。」というものが多く、ご質問では「〇〇にいくら予算を使っているのか。」というものが多く寄せられました。そこで、今月号では、財政再建計画に掲載した主な項目にかかる経費（平成21年度時点の行政サービス水準を維持する場合の今後5年間の必要経費）をお知らせします。（下の表）

表のように、これまでどおりの行政サービスを維持するためには、多額の予算を投入する必要があります。

しかし、人口減少や高齢化の進展により税収が減少する中、医療や福祉などの社会保障費が増加していくことから、ますます厳しい財政状況に陥っていくことが確実な状態で、財政推計では、平成23年度から基金（町の貯金）を取り崩さずに推移すると、平成24年度に財政再生団体（民間で言う倒産状態）に転落し、仮に基金を全部取り崩しても、平成26年度に財政再生団体に転落する見込みです。

これを回避するため、今後5年間で20億円以上の収支改善を目標とする財政再建計画を策定し、改革を進めることとしました。目標達成のためには、職員給与の削減、職員定数の削減など人件費の削減（5年間で10億円以上）に加え、身の丈に合った行政サービスに見直すことが必要で、事務事業の廃止縮小や施設の休廃止、統廃合などを進めざるを得ないという状況です。4月号でお知らせした財政再建計画では20億円程度の収支改善ができる見込みですが、それでも赤字体質から抜け出すことはできず、5億円以上のさらなる改革努力が必要であり、使用料・手数料の見直しや町有地の売却などについて検討中です。

住民のみならずにはご不便やご負担をおかけすることになりますが、今後とも、基本的な行政サービスは維持し、その上で、まちの活性化につながる施策を行ってまいりますので、ご理解、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

▶ 問合せ＝財政課 ☎739-3432

財政再建計画に掲げた主な項目の今後5年間の必要経費

項目	主な内容 (平成21年度の住民サービスを維持する場合の内容)	今後5年間の必要経費 (一般財源ベース)	財政再建計画による 見直し方針
巡回バス	・東巡回、西巡回、東西巡回の3路線を運行 ・バス車両2台を更新 ・高齢者等の料金を免除	2億9,800万円	廃止・休止する
光風台駅前エスカレーター	・日常の保守点検 ・施設を更新	3億100万円	
農村婦人の家	・日常の維持管理	600万円	
吉川公民館	・日常の維持管理	2,000万円	
ユーベルホール	・日常の維持管理 ・自主文化事業を開催 ・舞台装置等を改修	2億1,600万円	
青少年総合スポーツセンターのプール	・日常の維持管理 ・施設を改修	1,600万円	
豊悠プラザと保健センター	・日常の維持管理（人件費と事業費は除く）	2つの施設を合わせて 1億200万円	統廃合する
ふれあい文化センターと老人憩の家	・日常の維持管理（人件費と事業費は除く）	2つの施設を合わせて 1,900万円	
消防団ポンプ車の更新	・毎年1台ずつ更新（計4台）	5,000万円	削減する
公民館（中央、西）と図書館の自主事業	・各種講座、展示など	3つの施設を合わせて 1,600万円	
シートス	・指定管理料	2億6,900万円	合理化する
国保診療所	・赤字の補てん ・医療機器を更新	1億4,100万円	
駐輪場 (妙見口、ときわ台、光風台)	・日常の管理運営 ・光風台駐輪場の塗装工事	5,700万円	
ごみの収集（現状は無料）	・可燃ごみ、資源ごみなどの収集業務	10億8,000万円	有料化する

財政再建シリーズ

「何にいくらかかるのか？」にお答えします part 2

先月号に引き続き、事業ごとの今後5年間の必要経費をお知らせします。先月号では、財政再建計画に掲げた主な項目について掲載しましたが、今月号では、それ以外の、今後5年間に必要となる経費の主なものを掲載します。

ここに掲載している事務や事業は、厳しい財政状況の中でもやらざるを得ないもの、やるべきものであり、言い換えると、ほかを削ってでも財源を確保して実施するというものです。そこで問題となるのが「何を削るか」です。

町の施策は、どれも簡単に廃止、削減、統合などができるものではありません。しかしながら、財政の健全化を図るためには、行政サービスを豊能町の身の丈に合ったものに見直す(収入の範囲内で施策を行う)という観点から、これまで実施してきた様々な施策について優先順位を考え、見直しを行わざるを得なくなりました。4月号に掲載した財政再建計画は、その観点に立って策定したものです。

今年度の税収は約20年前の水準にまで落ち込み、ピーク時(平成9年度)の3分の2となる見込みです。さらに今後も人口減少と高齢化が進めば、ますます厳しい状況になっていきます。それでも20年前には無かった施設や事業などをたくさん抱えており、一部の行政サービスを見直すとともに、住民の皆さまにもご負担をお願いせざるを得ないというのが現状です。

4月号に掲載した財政再建計画をすべて実行すると、今後5年間で20億円弱の収支改善が図れますが、計画の目標である25億円の収支改善にはまだ5億円以上のさらなる改革が必要です。そのため、町では、今年度から財政再建推進室を設置して、さらなる改革に取り組んでいます。

一方で、基本的な行政サービスは維持しながら、町の活性化や税収確保に向けた新たな施策を講じる必要があることから、新たにプロジェクトチームを設置して検討を進めていますので、ご理解とご協力をお願いします。

▶問合せ=財政課 ☎739-3432

今後5年間に臨時的に施行するもの、引き続き施行するものの必要経費(一般会計)

区分	主な項目	主な内容	今後5年間の必要経費 (一般財源ベース)⑤
福祉・医療・保健	介護保険	介護保険特別会計への繰出	12億5300万円
	後期高齢者医療	後期高齢者医療給付費など	11億800万円
	国民健康保険	国民健康保険特別会計への繰出	5億3700万円
	健康増進、予防接種	各種がん検診、予防接種など	4億4200万円
	障害者福祉	たんぼぼの家の運営、障害者扶助費など	3億円
	老人医療	老人医療助成	9800万円
	障害者医療	障害者医療助成	5200万円
	母子保健	乳幼児健診、妊婦健診など	5100万円
	乳幼児医療	乳幼児医療助成	3900万円
環境	猪名川上流広域ごみ処理施設組合負担金	国崎クリーンセンターの運転と借入金の償還	12億4500万円
	豊能郡環境施設組合負担金	ダイオキシン対策(美化センターの解体)	1億9500万円
		ダイオキシン対策(施設内汚染物の処理)	金額未定
	し尿処理	し尿の収集、衛生センターの運転など	1億6700万円
生活基盤	下水道	下水道事業特別会計への繰出	4億5300万円
	道路の維持補修・舗装	道路の維持、補修、舗装工事	3億2400万円
	上水道	水道事業会計への繰出	3億100万円
	公園・緑地の管理	公園・緑地・街路樹の管理	2億9400万円
消防	消防無線のデジタル化	消防・救急無線のデジタル化への対応	2億3700万円
教育	吉川中学校耐震化等	校舎、体育館の耐震化と改修工事	1億4000万円
	東能勢幼稚園改修	保幼一元化施設(認定こども園)の改修	8500万円
	光風台小学校耐震化等	校舎、体育館の耐震化と改修工事	7600万円
	東能勢小学校耐震化	校舎の耐震化工事	金額未定
	東能勢中学校耐震化	体育館の耐震化工事	金額未定

⑤ 今後5年間の必要経費について

- ・ 臨時的な経費は個別に積算した金額を表示しています。
- ・ 経常的な経費のうち、今後5年間に大きな増減のあるものは年度別に積算した金額を、大きな増減のないものは平成22年度予算をベースに5年分を表示しています。
- ・ 一般財源ベースには町債(民間で言う借金)を含みます。

財政再建計画の進捗状況をお知らせします

目標は20億円以上の収支改善

豊能町では、平成9年に行政改革大綱を策定してからこれまで、歳出の削減、歳入の確保、職員給与と人員の削減などの行政改革に取り組んできましたが、急激な人口の減少と高齢化により町税が想定以上に減少したうえ、国の三位一体の改革により地方交付税が削減されるなど、歳出の削減が歳入の減少に追い付かない状況となり、基金（町の貯金）を取り崩して財源不足を補ってきました。このため、平成22年3月に、新たに「財政再建計画」を策定し、平成22年度から26年度までの5年間で20億円以上の収支改善を目標として、改革に取り組んでいます。

計画の一部は見直し

「財政再建計画」は、平成22年4月号の本誌に掲載し、住民の皆さんにお知らせしたところですが、町議会をはじめ多くの方々からご意見をいただき、協議や相談を重ねながら実行に移しているところです。計画の中には、当初の計画どおりに進まないものや計画を見直したものもあり、当初計画の目標額を若干下回る状況（現時点の収支改善見込み額は5年間で18億8千万円）となっていますが、計画策定後1年を経過しましたので、現時点の進捗状況をお知らせします。

今後とも、この計画に限らず、さらなる改革を図りながら財政を健全化し、活性化プログラムや第4次総合計画に掲げた事業の達成に向けて取り組んでいきますので、ご理解、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

財政再建計画（平成22年度～26年度）の進捗状況

項目	当初計画(平成22年3月)	進捗状況(平成23年4月現在)
人件費	22年4月から5年間、職員給与を5%削減。	実施済み
	22年4月から非常勤職員報酬を見直し。	実施済み
	22年4月から任期中、特別職等の給与を(町長17%、副町長・教育長7%)削減。	実施済み
	管理職手当の削減(部長・次長級15%、課長級10%)を継続。	実施済み
	職員数を削減(21年度当初比、26年度までに30人減)。 再任用制度を凍結。	実施中 実施済み
地デジ放送整備費助成	町独自の助成は行わない。	実施済み
巡回バス	22年4月から料金の減免を廃止。運行は23年4月からの廃止も含め全面見直し。バス車両の更新を見送り。	22年4月から減免廃止済み。バス車両の更新見送り。23年7月(予定)から東地区巡回、西地区巡回を休止。社会実験として、①新東西線は希望ヶ丘～ときわ台駅とし、箕面森町に停車。②東地区にはテマンドタクシーを導入。
本庁受付業務	23年度から業務委託を廃止し、職員が行う。	実施済み
豊悠プラザと保健センター	23年4月統合。	24年4月統合に向け検討。
国保診療所	医療機器の更新を見送り、合理化に向け検討。	医療機器の更新を見送り。合理化策は未定。
ふれあい文化センターと老人憩の家	23年4月統合。	当分の間、統合せず併存し、あり方を検討。ふれあい文化センター分館は23年3月末に廃止済み。
農村婦人の家	23年3月末に廃止。	25年3月末に廃止。地元に移管。ただし施設改修を要す。
清掃事務所	整備を見送り。既存施設を活用。	整備を見送り。23年4月から、現事務所(吉川支所2階)に環境課事務所と清掃事務所を統合済み。
ごみ収集の有料化	23年4月実施。	23年4月から粗大ごみのみ有料化を実施済み。可燃・不燃ごみは早期に有料化。
光風台駅前エスカレーター	設備の更新を見送り、毎年度修繕費を計上。26年度末までに廃止。	協議中
上水道事業への繰出金	22年度から減額。	実施済み
下水道事業への繰出金	22年度から減額。	実施済み
消防団ポンプ車の更新	毎年の更新をやめ、隔年に1台更新。	実施中
東地区保幼一元化	23年4月から双葉保育所と東能勢幼稚園を統合して、東能勢幼稚園敷地内に一元化し、こども園を設置。	実施済み
西地区幼稚園統合	23年4月から吉川幼稚園と光風台幼稚園を統合して、光風台幼稚園敷地内に設置。	実施済み
社会教育関係施設の運営協議会	22年度から社会教育委員会に一元化。	実施済み
公民館自主事業・図書館自主事業	22年度から館の事業予算を生涯学習課の経常予算に一元化することによって、総事業費を削減。	実施済み
吉川公民館	23年3月末に廃止。	実施済み。地元に移管済み。ただし施設改修を要す。
図書館	コンピュータシステムの更新を見送り。	国の交付金を活用し、コンピュータシステムを更新(23年度)。
ユーベルホール	22年度は自主事業を削減。23年3月末休止。舞台装置等の改修を見送り。	22年度は自主事業を削減済み。23年度は全体の運営経費を圧縮するとともに、自主事業を連携協力事業に再編して存続。24年度以降は運営方法を毎年検証。
青少年総合スポーツセンター	体育館、プールの改修を見送り。プールは22年度から廃止し、学校のプールを活用。	実施済み。ただし、学校ではなく、シートスのプールを活用。
シートス指定管理料	23年度から利用料金を見直し、指定管理料を削減。	24年度から利用料金の見直し等により指定管理料を削減。
吉川支所	身体障害者用便所の改修を見送り。	実施済み
駐輪場	光風台駐輪場の塗装を見送り。妙見口、ときわ台、光風台とも、合理化に向け検討。	光風台駐輪場の塗装を見送り。合理化策は未定。

▶問合せ＝財政課 ☎739-3432

奮励努力!!



町長 池田 勇夫

5月に入り、暦の上では立夏を迎え、夏の気配を感じられる季節となりました。豊能町の里山や公園でも木々の新緑が眩しく感じられ、町も輝きを増してくる季節でもあります。

さて、3月1日に発生した東日本大震災では、関東・東北地方を中心に大きな被害が発生し、多くの方々が犠牲になりましたことは、日頃から防災に携わる身としまして、痛恨の極みであり、心から哀悼の意を表すところです。

町としましては、震災の発生以降、義援金の受け付けや職員の派遣等の支援を行ってまいりましたが、これまでに住民の皆さまや小・中学校の児童・生徒の皆さまから多くの義援金のお申し出をいただいております。皆さまの温かいご支援に感謝いたしますとともに、皆さまのご支援が今後の復興に役立てていただけるものと考えています。

災害はいつ起こるか分かりません。今回の震災を契機として、皆さまも今まで以上に防災意識を高めておられることと思いますが、私といたしましても、皆さまに安心して暮らしていただけるよう、より一層身を引き締め、震災はもとより災害に強いまちづくりの推進に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

町としましては、引き続き、義援金の受け付けや職員の派遣を中心として、災害の支援を行ってまいりますので、皆さまの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

豊能町の財政推計

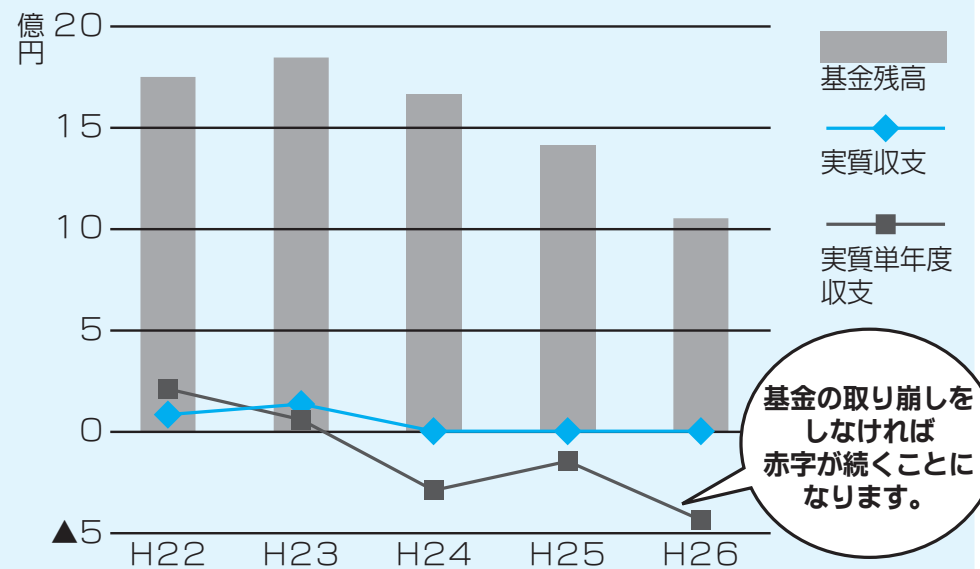
財政再建計画期間中（平成22年度から26年度までの5年間）の財政推計について、広報4月号に掲載した財政再建計画の進捗状況を反映し、算出しました。

結果は下記のグラフのとおりで、この推計から分かることは次のことです。

- ①財政再建計画を実行してもなお歳入より歳出が多く、実質単年度収支は大幅な赤字となります。（実質単年度収支とは、基金(町の貯金)の積み立てと取り崩しが無いとした場合の単年度収支で、その年度の実質的な収支を表します。）
- ②基金を取り崩すことにより実質収支は黒字か収支ゼロを維持できますが、平成26年度時点の基金残高は約10億円にまで減少します。（実質収支とは、歳入から歳出を差し引いた額から翌年度に繰り越す財源を控除した額で、一般的に実質収支の額を地方公共団体の黒字・赤字と言います。）

③このままでは平成27年度以降も基金を取り崩し続けることになり、数年先には基金が底をつきます。（町では、大幅な税収減や大災害などに備えて、最低10億円の基金を維持することを目標としています。）以上のことから、町では、さらなる行財政改革を進め、財政を健全化するとともに、町の活性化に向けて取り組んでいきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

財政推計



▶ 問合せ = 財政課 ☎ 739-3432